

2 指導案例

「絵本で育つ力」(本時7/15時間目)

(1) 本時の目標

- ・ 幼児にとっての遊びの大切さと役割を考えることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・ 絵本の工夫を知り、絵本によって育つ力を理解する。 (知識・理解)

(2) 準備

教師 ワークシート、絵本

(3) 学習過程

時間	学習活動	教師の支援・留意点 ☆評価規準
つかむ5分	1 幼児の1日と中学生の1日と比較し、幼児の生活時間の特徴を確認する。(一斉) <ul style="list-style-type: none"> ・ おやつがある ・ 睡眠時間が長い、年齢が上がるにつれて短くなる。 ・ 遊ぶ、寝る、食べるが基本 ・ 遊びの時間が多い ミニカー → 想像力 サッカー → 運動能力 パズル → 思考力 絵本 → 想像力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のワークシートを活用して、幼児の1日と中学生の1日の比較を確認する。 ・ 遊びの時間が長いことに気付かせる。 ・ 幼い頃どのようなおもちゃや遊びが好きだったかを記録した前時の授業のワークシートを活用しながら、幼児の遊びの発達と育つ力をワークシートに記入する。 ☆幼児にとっての遊びの大切さと役割を考えようとしたか。(授業の様子、ワークシート) 【関】
	2 本時の学習内容を知る。(一斉) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">絵本によって育つ力を知ろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を板書する。
広げる20分	3 絵本の工夫や特徴を考える。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんは言葉が理解できないのに、なぜ赤ちゃん対象の絵本があるかに視点をもたせるため、はじめに教師が師範として「いないいないばあ」を読み聞かせする。 ・ 意見を共有するためにグループ活動を行う。 ・ 意見をワークシートに記入する。 ・ グループにさまざまな年齢を対象とした絵本を配付することで、発達段階に合わせた工夫やどの年齢の絵本でも共通することがあることに気付かせる。 ・ 発表時にどの本のどの場面から感じたかを発表させることで、他の生徒が共感できるようにする。
	4 グループごとに意見を発表する。(一斉) <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵が色鮮やか。 ・ 文節でスペースがあいている。 ・ アニミズムが使われている。 ・ 繰り返し同じリズムで読める。 ・ 感情が書かれていない。 	
深める20分	5 絵本によって育つ力を考える。(個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見をワークシートに記入する。
	6 意見を発表する。(一斉) <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字や絵への好奇心を育てる ・ アニミズムが使われているから物や動物を大切に作る心を育てる。 ・ 繰り返し同じリズムにすることで感覚機能を育てる。 ・ 絵や内容から想像力や思考力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の工夫と育てる力を関連付けて発表させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が読むことでコミュニケーションを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の4年生の国語の教科書に載っている「ごんぎつね」の最後の1ページを絵本で読み聞かせて、想像力や思考力を育てることを感じさせる。 ・読み方にも工夫が必要な事を伝える。
まとめ 5分	6 本時の学習について自分の考えをまとめる。(個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごんぎつね」を聞き終えたときの感想と本時の感想をワークシートに書かせる。 ☆絵本によって育つ力が理解することができたか。(授業の様子, ワークシート) 【知】

(4) 評価

- ・意欲をもって絵本の工夫や特徴を見つけることができたか。(授業の様子, ワークシート)
- ・絵本によって育つ力を考えることができたか。(ワークシート)